

基盤地図情報作成検査ツール バージョン 6.0.51 更新記録

2010/07/08
有限会社ジオ・コーチ・システムズ
<http://www.geocoach.co.jp/>
info@geocoach.co.jp

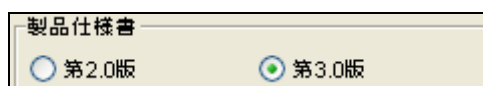
1. 第 3.0 版

基盤地図情報原型データベース地理空間データ製品仕様書(案)の第 3.0 版の XML 出力に対応しました。以下、説明書の「1.4. 第 3.0 版への対応」の抜粋です。

基盤地図情報原型データベース地理空間データ製品仕様書の第 2.0 版から第 3.0 版への追加・変更項目への対応についてリストアップします。基盤地図情報作成検査ツールのバージョン 6.0.51(2010/07/08)から対応を開始しています。

JPGIS2.1

第 3.0 版から JPGIS のバージョンが 2.1 になりました(第 2.0 版は 2.1)。メニュー[基盤地図情報]-[基盤地図情報 XML 作成], [XML ファイルへ変換], [XML ファイルへ変換 2]ではダイアログで第 3.0 版か第 2.0 版を指定するようにしました。



このオプションで、出力する XML ファイルの GI 要素内の JPGIS の日付を「2009-05-31」「2008-03-31」を切り替えます。また、XML ファイル名の通し番号の桁数を変えます

	JPGIS	XML ファイルの桁数
第 2.0 版	2.0 日付は「2008-03-31」	4 桁。例 ○○市_等高線 0001.xml
第 3.0 版	2.1 日付は「2009-05-31」	3 桁。例 ○○市_等高線 001.xml

出力する基盤地図情報原型データベース XML の地物の属性や図形の形式については JPGIS2.0 と JPGIS2.1 の違いはありません。

地物の追加

地物「水部構造物線」と「水部構造物面」および「道路中心線」が追加されています。「道路中心線」は整備の対象となっておりません。「水部構造物線」と「水部構造物面」についてバージョン 6.0.51 から対応しました。

- ・メニュー[基盤地図情報]-[シフト表示]
- ・メニュー[基盤地図情報]-[シェープファイル検査]
- ・メニュー[基盤地図情報]-[基盤地図情報 XML 作成]
- ・メニュー[基盤地図情報]-[基盤地図情報 XML 検査]
- ・メニュー[基盤地図情報]-[シームレス検査]
- ・メニュー[基盤地図情報]-[地物 ID の構成]
- ・メニュー[基盤地図情報]-[シェープファイルへ変換]
- ・メニュー[基盤地図情報]-[XML ファイルへ変換]
- ・メニュー[基盤地図情報]-[XML ファイルへ変換 2]
- ・メニュー[基盤地図情報]-[XML-XML 比較]
- ・メニュー[基盤地図情報]-[削除リスト作成]

属性と列挙型

道路構成線に属性「管理主体」が追加されています。道路管理主体種別列挙型に「高速道路管理団体」が、水涯線種別列挙型に「用水路」が追加されています。また、水涯線種別列挙型と海岸線種別列挙型については第 3.0 版では推奨しない値が指定されています。この変更に対応するため、インストールフォルダの「SHPQualityDefMain.csv」「SHPQualityDefCodeFeature.csv」「FGDCDB2SHP.csv」に項目を追加しました。「SHPQualityDefMain.csv」「SHPQualityDefCodeFeature.csv」はシェープファイルの検査、「FGDCDB2SHP.csv」はメニュー[基盤地図情報]-[シェープファイルへ変換], [XML ファイルへ変換], [XML ファイルへ変換 2]で参照しています。